

山間部に集落が点在する地域におけるFM放送エリアの改善を図るため、中継局までの番組伝送等を無線で行う技術を検討することで、難聴解消とともに放送局の負担軽減を図り、周波数を有効利用するための方策、技術的条件の策定に資する。

現状(課題)

- コミュニティFMは1地域1波の制約があり、送信所での放送波中継ができないため、演奏所～送信所間などの中継回線(STL/TTL)が必要。
- 現用の無線による中継回線(放送事業用)の課題
 - マイクロ波帯のものは、整備コストが非常に高い
 - 60MHz帯及び160MHz帯のものは、AM放送用での使用を前提としているため、ステレオ伝送は不可
- コミュニティFM放送局では、STL回線として専用線の使用が多い。(回線使用料の負担が大きい)

災害時には有線回線が寸断され、災害情報等を放送できないことも想定されるため、**無線によるコストが低廉な中継回線の実現が必要。**

信越総合通信局の取組

調査検討会の開催

60MHz帯及び160MHz帯によるステレオ伝送可能な中継回線の技術的条件等の検討及び技術試験を実施(H26年度)

成果報告

総務本省の取組

制度整備
技術的条件の策定
(H27年度目途)

主なスケジュール(予定)

- 平成26年度
- ・ 6月20日 調査検討会を開催
 - ・ 10月～ 技術試験の実施 (公開実験日进行する予定)
 - ・ 3月までに報告書を取りまとめ

※調査検討会の各会合及び公開実験は取材可とする予定

